

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0992300079		
法人名	社会福祉法人 啓和会		
事業所名	グループホーム元気		
所在地	栃木県下都賀郡壬生町壬生甲2224-1		
自己評価作成日	平成30年1月14日	評価結果市町村受理日	平成30年3月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成30年2月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は毎朝の理念の唱和で掲げているように利用者様一人一人が家庭的な雰囲気の中、その人らしく生活が送れるよう支援をしています。広い庭では、四季折々の草花や畑での野菜作りを行っています。とれた野菜でおやつや食事の一品を作り、利用者様に楽しんで頂いています。自治会の方のご厚意で春はお花見会、夏は夏祭り、秋の敬老会などに入居者様を招待して頂いています。施設ではボランティアの誘致も積極的にいき、今年度も3件の新規のボランティアさんに来ていただいています。3か月に1度、避難訓練を実施し、うち年に一度は自治会の方も参加しています。常に職員同士が意見を交換し合い、入居者の意見も取り入れながら、生活の質の向上を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

町中心部からほど近く利便性に優れるとともに、幹線道路から少し入った事業所周辺には田園が広がり、種々の花や木がある広々とした庭園の中で、季節感や安らぎを感じながら落ち着いて暮らせる環境が整っている。建物の周囲に遊歩道を整備し、利用者が散歩を楽しめるようにしている。室内は明るく落ち着いた雰囲気、吹き抜けのリビングは開放感が感じられる。同法人の運営するデイサービスセンターや運営母体である医療法人と連携しており、毎週協力医による回診があるなど、介護、医療面における利用者や家族の安全安心につなげている。職員間のチームワークが良く、事業所独自の理念の基に利用者との心のつながりを大切にして、共に楽しく暮らせるよう支援している。毎日レクリエーションや体操を行い、楽しみながら利用者の機能維持に努めている。地域との交流や災害対策にも積極的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼の時に職員全員で理念の唱和をすることで入居者が一人一人その人らしい生活を送れるよう自覚を持って支援している。	事業所独自の理念を事務室などに掲示し、毎日の申し送り時に唱和し共有している。利用者との心のつながりを大切に、明るい環境の中で共に楽しく暮らせるよう実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入していることで、地域の行事などを通して地域の方々とのふれあいの機会を作っています。	普段からフェンス越しに近隣の方から声かけやあいさつがある。夏祭りやお花見、敬老会など自治会や町主催の行事に積極的に参加したり、毎月のように傾聴やフラダンス等の各種ボランティアの訪問があるなど、地域の人達と交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当施設にある地域交流室を開放し、活用することで地域の方々に施設の事を知って頂き、認知介護について理解を深めている。主に介護教室や認知症カフェなどに使用して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではお芋ほりなどの行事や避難訓練を同時開催したり、入居者とも触れ合ってもらい、より良い施設への向上のために意見交換をしています。ご家族の参加も毎回同じ方にならないよう他の方にも声かけをしています。	町職員・地域包括支援センター職員・民生委員・自治会長・家族等が参加し、行事や利用者の状況報告及び意見交換を行っている。避難訓練に併せて会議を開催するなど、意見の出やすい工夫にも努めている。	毎回家族の参加が得られるような工夫とともに、地域の理解や支援を得るため消防や駐在所など様々な分野の人の参加を試み、幅広い意見をサービス向上に活かすような取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町役場の職員に運営推進会議に出席して頂くことで入居者の生活状況や施設の状況にある程度は把握して頂いている。	運営推進会議には毎回町職員の参加があり、事業所の状況を伝えている。町からは情報提供があったり、運営上の相談や事務手続きなどで指導を受けるなど、日頃から連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員同士で拘束になりそうな行為があれば注意し合い、職員会議の勉強会では一年に一度身体拘束について話し合いをしています。特に言葉による拘束には気を付けて対応するようにしています。	身体拘束について、毎年勉強会で基本的な学習をしているほか、日常のケアの中でも職員間で注意し合っている。職員は身体拘束の具体的な行為等を良く理解しており、言葉による拘束を含め身体拘束の無いケアに取り組んでいる。日中における玄関の施錠もしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者への態度や言葉使いを常に気を付けている。対応に問題があれば職員間で話し合い改善に努めている。		

グループホーム元気

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症の方の自立支援について勉強会などで話し合う機会を設けている。実際に利用されている入居者もいるため、身近に感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には契約内容、料金等細かく説明を行い、疑問点や不安なことがあればその都度対応させて頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の相談受付については契約時に重要事項として説明させて頂いている。家族面会時には何か問題はないか、常に確認している。また、面会簿に意見、要望欄を設けており何かあれば書いて頂くよう伝えています。	利用者からは日頃の生活の中で丁寧に要望を聞きとるよう努めている。家族の意見や要望は面会や行事での訪問時に確認している。出された意見等は職員間で検討の上、応えられるよう努めている。	会報を活用するなど、家族の意見等をさらに出しやすくできるような取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は他の職員とほぼ同じ業務を行っている為、常に現場の意見を身近に聞くことが出来る。入居者の待遇や職員の業務で改善したほうが良いことは意見を出し合い、見直している。	管理者は職員会議や各種委員会で職員の意見や提案を聞いている。日常の業務の中でも職員が意見等を言い易い関係を築いており、ケアに関する意見や業務改善の提案について支援や業務に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課表の記入で職員が皆自己評価を行い、管理者もスタッフ会議などで職員の現状などを報告し、より良い職場環境を作れるように話し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修などに参加できるように検討し、参加者のみでなく、他職員にも実習の内容を共有すべく職員会議の勉強会などで一緒に考え、意見を出し合ってもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入している。地域交流室を開放することでオレンジカフェに来る方々と交流したり 研修などで他施設の方と情報交換したりしている。		

グループホーム元気

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に必ず面談を行い自宅での様子を伺う。また、本人や家族から施設での生活の不安点や要望などを聞き、安心して入所して頂けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実際に施設を見学して頂き、ご本人やご家族の質問に具体的な対応の例などを挙げることで不安の解消に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅のケアマネージャーから自宅での様子や利用していたサービスなどの詳細を聞き、ご本人やご家族の意向に沿ったサービスを提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者主体の介護サービスを常に考え、手を出し過ぎる介護ではなく、共に協力し合い話し合いながらより良い生活が送れるように努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には施設での状況をきちんと伝え、入居者のちょっとした変化も把握して頂いている。遠方のご家族とも月に一度以上は連絡を取り合うように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の方も気軽に来れるように家族的な雰囲気を作り、外出の際にはご本人の行きたいところへお連れ出来る様に心掛けている。	家族や友人等が気軽に訪問できるような雰囲気作りに努めており、面会があった時にはゆっくりと話せるように配慮している。家族の支援のもとに馴染みの店での買い物や美容室、墓参りなど、馴染みの人や場との関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	交流のある入居者同士の関係を大切にし、また他の人とも交流が持てるよう隣の棟へ行き来し会話の機会を増やしています。		

グループホーム元気

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者がこだわっていた生活習慣を引き継げるように居宅のケアマネージャーや関係各機関に情報提供している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の中で入居者の少しの変化や意向にも対応できるように職員同士意見交換し、改善出来る事は実践している。困難な場合はご家族とも相談し本人にとって良い選択が出来る様に努めている。	日常の関わりの中での会話や気付きなどにより、思いや意向を把握するように努め、職員間で共有し対応している。困難な場合でも家族からの聞き取りや表情などから把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活状況やご家族との関係等を把握し、施設での生活が始まって環境の違いに戸惑わないように分からない事や心配事を聞き相談に乗っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の1日の様子を記録し、特変があればきちんと申し送りをし、職員全員が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を確認し、ケアマネージャーや担当職員が話し合いをし、介護計画を作成している。また3か月に一度サービス担当者会議を開き計画の見直しを行っている。	本人や家族との話し合いにより、希望等を確認した上でサービス担当者会議を開き、職員の意見や協力医の指示を加味し、介護支援専門員を中心に現状に即した介護計画を作成している。毎月のモニタリングにより援助目標の達成度を確認し、3か月ごとに見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日々の様子を記入することで入居者の様子を把握し、早急に見直したい事や伝えたい事は連絡帳に記入することで出勤した職員がすぐ確認できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	専門の医療やその他のサービスを利用したい入居者にはご家族にも相談し利用できるものは紹介し実施できるように支援している。		

グループホーム元気

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会主催のお花見や夏祭り、敬老会などへ参加することで地域の方々と交流を深めている。また、認知症カフェに参加したり、各種ボランティアの方々と接することで張りのある、生活が送れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医への受診の継続を希望するか伺い、定期的又は必要に応じて連絡している。特に希望がない場合、嘱託医を主治医とし、毎週火曜日に回診を行っている。	希望するかかりつけ医での受診を基本としているが、内科・外科は利用者全員が協力医を受診している。投薬や受診状況等の情報は家族や主治医と共有し、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は常駐していない為、主治医に報告をしている。入居者が重度化した場合は、同法人の看護師に協力を依頼し点滴処置等実施したり、相談にのって頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した場合、治療経過などご家族や病院関係者に確認し、また直接病院に様子を見に行くことも有ります。退院時はADLの変化が大きいので情報をきちんと職員に伝え受け入れの準備をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明を行っている。実際に入居者が重度化した場合には、ご家族、主治医、ケアマネージャーが話し合い、看取りを希望するかなどの方針を共有している。	利用開始時に事業所の対応を説明し、家族と話し合いを行い、重度化した場合等の方針を共有している。利用者の状況変化には同法人のデイサービスセンターなどと連携し対応しているが、看取りについてはできる限り希望に沿えるよう支援し、実績もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者が急変したときのマニュアルは常に職員の目が届くところに張り出している。消防による救命処置講習にも今まで数名の職員が参加し、これからも受講できるように検討している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練も定期的実施している。消防や自治会の協力で、夜間想定避難訓練や水難訓練を実施している。緊急連絡バックを用意し慌てず通報出来る様にしている。	避難・消火訓練は地域の協力のもと、消防署の指導によるものを含め3か月ごとに実施し、有事への対応力向上に努めている。夜間想定訓練や水難訓練も行っている。利用者個々に避難方法を決め居室に表示したり、地域の人を含めた連絡網や食料等の備蓄も整備している。	

グループホーム元気

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	扉の空いている居室であっても、入室を求めるときには必ず声を掛けノックをしている。慣れ親しんだ関係であっても敬う言葉使いを忘れないように職員間で常に気を付けている。	理念にあるように、利用者との心のつながりを大切にして、その人らしい生活ができるよう支援することを心がけている。利用者には優しく尊敬を持って接し、誇りやプライバシーを損ねないよう努めている。広報誌への写真掲載は家族の了承を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話や態度などから入居者が望まれていることをメモに残し職員間で共有している。ご家族に相談すべきことは相談しご本人の意向に沿うようにして言う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各種行事やボランティア、レクレーションなどの参加は強制せず、ご本人の意思に任せている。その日の体調も考慮し、ご本人のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入所前からしていたスキンケアや整髪料などご本人の希望に沿って出来るだけ継続して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お好みメニューや手作りおやつ、行事食など入居者の希望を取り入れながら一緒に考え準備している。また、個々の能力に応じて職員と一緒に片付けや食器拭きのお手伝いをして頂いている。	献立や食材の調達は業者への委託であるが、毎食職員が手作りしている。毎月の「お好みメニュー」や手作りおやつ、四季折々の郷土料理、外食なども取り入れ楽しみとなっている。テーブルや食器拭き等を手伝う利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状態に合わせて食事形態を考え、水分の足りない時は根気よく声かけし、時間をかけて摂取して頂いている。また、食事量は摂取量に記入し常に把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず洗面台で歯磨き義歯洗浄を行っている。自身で洗浄が難しい入居者は職員が仕上げを手伝い確認する。又口腔洗浄液も利用しうがいをしている方もいます。		



グループホーム元気

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄時間を記録することで排泄のリズムを把握し、時間で声かけ誘導を行っている。また動作で尿意を訴える方には注意深く見守りサインに気づけるようにしています。	排泄チェック表により利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけに配慮し時間を決めて誘導するなど、トイレでの排泄に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分摂取や体操、散歩等を行うことで腸に刺激を与えている。また、排泄表をチェックすることで無排便の日数を把握し、その場合個々にあった対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の健康状態を確認し、入浴の希望を聞きご本人のタイミングの良い時に入浴して頂いている。拒否のある方には時間をかけ、声かけを工夫したりしている。無理強いせず、その場合着替えだけでもして頂いている。	入浴は週3回を基本としており、利用者の希望や体調等に配慮するとともに、拒否傾向のある利用者には声かけなどを工夫し対応している。季節によりゆず湯や菖蒲湯にしたり、職員と昔話をしたり歌を歌うなど、入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	週に一度はシーツ交換をし、汚染された場合その都度交換している。冬季の寒い時期はあったか敷きパッドを強いて頂くなど、ご希望の方には家で使っていたような寝具を利用して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の内服薬は常に確認できるように個人ファイルに処方箋が入っています。薬の変更があった場合は状態に変化がないか観察し、何かあれば直ちに主治医に報告する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に合った楽しみを見つけ、趣味などの時間を尊重している。また、お手伝いをする中で役割を意識し張りを持って生活している方もいます。食べたいものがある人は家族と協力して用意し、楽しんでいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出が楽しみな入居者は定期的に出かける機会を設けている。また、家族との外出を楽しんでいる方もいます。外出が好きでない方も気分転換に外食をしに出掛けることで楽しかったとのお声もありました。	日常的には事業所敷地内を散歩したり、近くのコンビニエンスストアに出かけている。車を利用してスーパーマーケットやファミリーレストラン、回転寿司、蕎麦屋などにも行くこともある。季節によりお花見や夏祭りなどの地域行事に加え、近隣の公園に行くなど、希望に沿えるよう支援している。	



グループホーム元気

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金はお預かりしているがいつでも使用したい時に使えることを伝えてあります。自身で買いに行けない方も、職員やご家族が欲しい物を代わりに購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望した場合は、随時電話が出来る様になっています。実際に帰宅願望のある方がご家族の了承を得て何度も電話を使用しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングでは季節を感じられるような展示物や歌などを掲示し、また入居者手作りの作品も展示している。家具も入居者の通りやすいように使いやすいように配置している。	室内は明るく落ち着いた雰囲気、清掃を行き届かせ、温湿度等も適度に調整している。リビングは吹き抜けで天井が高く開放感があり、木の温もりを感じられる。壁などには利用者の写真や折り紙等の作品を飾り、生活感や季節感を感じさせている。ソファを広々とした庭に面して置き、利用者のくつろぎの場となるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事テーブル以外にもいつでも利用できるソファやテーブルがある。希望に合わせ席も移動できるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や生活用品を使用してもらったり、家族写真や自身で作られた作品を飾ったり居心地の良い空間を作っている。	エアコン・クローゼット・ベッド・洗面台が備えつけられている。家具類や日用品等は使い慣れた物を持ち込むよう支援しており、家族の写真や趣味の作品等を飾ったり、テレビやタンスなどを配置するなど、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに合わせた家具の配置を行い、動きやすいように危険が無いように配慮している。トイレの場所や自室の場所など混乱しないように名前を書いています。		